

長野の林業

No.
399
2025.5.10

特集

トピックス

中部森林管理局・長野県林務部の取組

- ・県産材の利用促進
- ・「開かれた里山」シンポジウム
- ・長野県林業士の誕生
- ・人事異動



県森連だより



提案者の岡谷氏(左)と山田氏

長野県産木材「ロゴマーク・キャッチフレーズ」決定！！

長野県では、長野県産木材の認知度向上及び高付加価値化に向けて、「ロゴマーク・キャッチフレーズ」を公募し、応募のあった86点の審査を行い、令和7年3月21日に決定・公表しました。

ロゴマークは、ティーズデザイン企画室の山田達也氏(安曇野市)、キャッチフレーズはデザイナーの岡谷哲男氏(諏訪市)から提案のあったものを決定し、公表に合わせて表彰を行いました。

この「ロゴマーク・キャッチフレーズ」は、長野県産木材を使用した製品等に幅広い形で活用いただけます。(詳細は6ページに掲載)



長野の林業
フルカラー版

令和7年度

中部森林管理局の取組について



令和7年度の取組のポイントを紹介します

一、安心な暮らしと安全な環境を守るために

○地域の安全、安心確保と自然環境に配慮した治山対策を推進します。

◇災害への迅速な対応

・上高地六百沢で発生した土石流に対し、当面の安全対策としてセンサー及び応急的な土石流対策施設の設置を観光シーズン前に終わ



応急的な土石流対策工として強靱ワイヤーネットを設置
(上高地、地上高は約5 m)

らせ、本格的な復旧対策に着手予定

・豪雨による土砂流出に対し、災害関連緊急治山事業により復旧対策に着手予定

◇災害予兆への対応

・山地災害発生時のみならず災害予兆に応じたヘリコプター調査の実施



ヘリコプター調査

◇通信環境の確保

・「低軌道衛星通信」を活用したリアルタイム監視体制の強化

二、林業技術の向上に向けた取組

○伐採から再造林、保育に至る収支のプラス転換に向け、国有林のフィールドを活用して、技術

の普及、低コスト化・効率化の実証を推進します。

◇5年後の実用化を目指した技術開発

・エリートツリー等のコンテナ苗に超緩効性肥料を用い、更なる成長促進効果の検証、下刈回数削減による省力化の推進
・電動一輪車を用いて人力運搬にかかる省力化、軽労化の検証

◇造林技術検討会の開催

・現地検討会で新旧の林業技術に対する知見を深め、林業事業者等と成果を共有



枝打ち機による技術検討会

◇地域特性に応じた集材技術の向上と普及の取組

・素材生産事業者の協力のもと、架線集材を行う技能者育成や作業の効率化、技術継承を目的とした現地検討会の開催



架線集材現地検討会(南木曽支署) 木曽地域の生産請負事業地で開催

三、多様で健全な森林づくり

○広葉樹の森づくりや花粉対策など多様で健全な森づくりを推進します。

◇広葉樹の森づくりの具体化

・有識者による提言を踏まえた森づくりの候補地を令和6年度森林計画において選定。広葉樹二次林



森林計画で選定された広葉樹の森づくり候補地(黒姫山国有林)

の伐採や更新の方法に関する現地検討会を開催

◇スギ花粉発生源対策を加速

・政府が策定した花粉発生源対策において、令和15年度までの10年間でスギ人工林を約2割削減するとされたことを踏まえ、伐採と植替えを加速化

・管内国有林の中でもスギが多く分布する長野県北信地方、岐阜県飛騨地方を中心にスギ人工林の主伐、再造林の予定箇所を増加

四、その他の取組

◇伝統技術の継承

・「木の文化」を支える側面から、木曽地方の国有林において、伝統的な伐採手法である「三ツ紐伐り」の技術継承に協力



三方向から斧で空洞を空ける「三ツ紐伐り」の練習風景（王滝国有林にて）

◇新たな獣害対策の取組

・深刻化するシカの食害に対する獣害防護柵について、沢部の柵と周囲の柵を切り離し、一部を壊れ易くすることで周囲の柵を倒壊に巻き込まない「受け流す柵」を新たに考案（愛知所）。既設の柵も簡易に改修可能なことから普及を推進



台風による被害の様子「受け流す柵」のみが損壊し周辺の柵への被害は見られない

令和7年度トピックス

◇山仕事カスタムカー

・「林道を走破できる地上高の高い車体」、「汚れた道具類も格納できる広い荷室」といった現場の声に応えるため、保有する軽車輛を改装し、「快適・きれい・使いやすい」をコンセプトに機能的で工夫を凝らしたカスタムカーを製作



- ・標準車比35mmアップの最低地上高
- ・砂利道の跳石から車輛下部を守るカバーを装着
- ・荷室には金属製フレームの棚を作設し、作業で汚れた鋤簾や下刈り鎌なども入るアルミ引き出し道具箱を製作
- ・開閉式のテーブルは、モニターを置くなど用途に応じ活用できる耐荷重仕様



※令和7年度中部森林管理局の取組の詳細は、当局ホームページまたは、コードを読み込んでください。

		単位	R6	R7
保 育	新 植	ha	277	284
	間 伐	ha	1,852	1,377
収穫量	主 伐	千m ³	157	205
	間 伐	千m ³	353	318
林 道	新 設	km	0.6	0.7
治 山	溪 間 工	基	49	34
	山 腹 工	ha	21	26
	地すべり防止工	ha	164	291

長野県内の主要事業量

長野県内の国有林は、県土面積136万haの27%（37万ha）を占めています。健全な森林の育成や地球温暖化防止のため、間伐等の森林整備を推進しています。

令和7年度 長野県林務部の主要施策の概要

～森林づくりで未来につなぐ 森の恵みとゆたかな暮らし～



林務部長 幸夫 木橋 根

このたび、令和7年4月1日付けで林務部長を拝命いたしました。長野県の森林・林業・木材産業の振興、そして健全な森林づくりに向けて、全力を尽くしてまいります。

本県の森林資源は、先人たちのためめ努力により着実に増加し、現在は「育てる時代」から「利用する時代」へと移行しております。この豊富な資源を有効に活用するためには、間伐を主体とした素材生産から、主伐・再造林へと転換していく必要があります。また、気候変動の影響が大きくなる中、防災・減災のための森林整備を進めるとともに、森林・林業に関わる多様な人材の確保・育成、更には県民の皆様にも木や緑のぬくもりに親しんでいただける環境づくりなどの取り組みを着実に進めていくことが重要です。

昨年度末に施行された「信州の豊かな森林と環境を守る県産材利用促進条例」に基づき、本年度は県産材利用促進に向けた取り組みを加速させてまいります。公募により決定した「ロゴマーク、キャッチフレーズ」を積極的に活用し、県産材の魅力を発信し、公共・民間問わず様々な場での県産材の活用を進めてまいります。

また、昨年度立ち上げた「木曾谷・伊那谷フォレストバレー」により、全県に人材育成・イノベーションの創出を広げ、森林・林業を通じた移住・定住の全国的な拠点となるよう進めてまいります。

今後も、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます、就任のご挨拶とさせていただきます。



NAGANO WOOD PRODUCT

つながる木のいのち

県産木材のロゴマーク・キャッチフレーズ

令和7年度の取組のポイント

令和7年度は、県内の充実した森林資源の循環利用をさらに促進し、付加価値の高い県産材製品の商流の拡大や安定供給の強化を図るとともに、主伐・再造林を着実に推進するため、長野県森林づくり指針の基本方針に基づく施策を進めます。

本年度、重点的に取り組む施策を三つの基本方針に沿ってご説明します。
※(税)森林づくり県民税活用 (譲)森林環境譲与税活用

持続的な木材供給が可能な森林づくり

《県産材の需要・商流拡大と安定的な供給体制の確立》

●「信州の豊かな森林と環境を守る県産材利用促進条例」が制定されたことを受け、現状の木材利用の促進に関する方針の抜本的な見直しを行い、県による率先利用を進めます。

●耐火集成材等の新たな部材や技術を活用する施設等に対して、補助上限額を引き上げるなど制度を拡充し、木造・木質化を推進します。

●JAS認証取得の促進により、構造計算が必要な建築物への県産材の供給体制を強化します。

《適正な主伐と計画的な再造林の推進》

●主伐・再造林を促進するため、森林所有者の費用負担が大きい主伐後の再造林や初期保育作業等に係る経費を引き続き支援します。

●花粉の少ない苗木を含む優良苗木の生産拡大・安定供給を図ります。

●再造林の支障となる林地残材の有効利用等への支援を行います。

●主伐・再造林の推進に必要なICTなどを活用した先進的な低コスト造林技術等の実証を行い技術普及に努めます。



スギ少花粉採種園



県産材活用施設(こども園)

《林業就業者の確保・育成とイノベーションの創出》

●新規就業者の確保のため、移住者を含めた林業への就職や転職を支援します。

●兼業や就業体験等による多様な人材の確保・育成の取組を支援します。

●木曽谷・伊那谷フォレストバレーの取組の推進により、人材の育成及びイノベーションの創出を図るとともに、「木や森に関するプロジェクト」の展開と民間事業者による取組の支援を行います。



木曽谷・伊那谷フォレストバレーキックオフフォーラム

【主な事業】

(議)木造・木質化支援事業(6200万円)

(税)信州の森林づくり事業補助金(人工造林・初期保育の高上げ)(2億3076万円)

(議)信州の森林で働く人材確保推進事業(2579万2千円)

(議)木曽谷・伊那谷フォレストバレー形成整備事業(1945万3千円)

県民が恩恵を享受できる森林づくり

《森林サービス産業の推進》

●森林空間を健康や観光など様々な分野で活用する「森林サービス産業」を振興するため、ネットワークの運営、創業・活動支援、質の高いサービスを提供できる人材を育成し、地域の里山や学校林を活用した森林環境教育への支援を行います。

【主な事業】

(税)開かれた里山の整備・利用推進事業(5634万6千円)

(税)森林サービス産業総合対策事業(3596万4千円)

県民の暮らしを守る森林づくり

《ツキノワグマ対策及び狩猟者の確保・育成の推進》

●ツキノワグマ出没状況における注意報・警報・特別警報の発出基準の明確化による迅速な注意喚起を行います。

●追い払いや誘因物除去など出没対策への支援や市町村と連携した情報発信の強化を行います。

●有害鳥獣捕獲を行う新たな担い手の掘り起こしを図るため、実践的な技術や狩猟の魅力を広める講座を実施します。

《効果的な森林病害虫対策の推進》

●松くい虫被害レベルマップを活用した効果的な防除対策を推進します。

●被害リスクの高いアカマツ林、広葉樹林の伐採と木材利用を促進します。

●森林資源を有効活用するための林道等の路網整備、山地災害を防止するための治山施設等の整備、森林を健全な姿で次世代に引き継ぐための間伐等の森林整備に取り組みます。

【主な事業】

ツキノワグマ総合対策事業(1458万6千円)

森林健全化推進事業(1億2907万円)

公共事業 林道(9億2802万2千円)

治山(37億1888万4千円)

造林(20億2000万円)



防災・減災のための里山での間伐

森林づくり県民税、森林環境譲与税の活用

●森林づくり県民税を活用して、①森林の若返り促進と安全・安心な里山づくり、②森や緑、木のぬくもりに親しむことのできる環境づくり、③森林・林業活動に取り組む多様な人材・事業体への支援、④市町村と連携した森林等に関連する課題の解決に取り組めます。

●森林環境譲与税は、森林経営管理制度などを実施する市町村支援に係る施策や単独の市町村では進めにくい林業の担い手確保施策などを主に活用することとし、市町村の取組状況に応じた支援を行います

【主な事業】 ※一部事業費再掲

(税)森林づくり県民税活用事業(8億1775万1千円)

(議)森林環境譲与税活用事業(2億6985万7千円)

県産材の利用促進について

最近の県産材利用に係る動きについて御紹介します。

「信州の豊かな森林と環境を守る県産材利用促進条例（県産材利用促進条例）」が公布・施行されました。

県産材の利用の促進に関し、「県産材利用方針」の大幅見直しを行い、基本理念を定め、県の責務等を明らかにすること等により、県産材の利用の促進に関する施策を総合的に推進することを目的とする条例が令和7年3月10日に公布・施行されました。

しを行います。

なお、本条例は、長野県議会環境政策推進議員連盟において、県産材の利用の促進、脱炭素社会の実現も目的とした条例の制定を目指し、県民の皆様からの意見募集等を行い、検討を重ねていただき、議員提案により成立しました。

具体的には今年度中に現行の

- 基本理念として、川上から川中、川下まで木材の流通に関わる産業全体を対象とした持続的可能な振興について規定
- 県は、公共建築物・公共土木施設の整備等に当たり、自ら率先して県産材の利用に努めるとともに、市町村等が整備する公共建築物・公共土木施設における県産材の利用を促進するために支援などを講ずることを規定
- 県産材の安定供給を促進するため、県は、製材その他の木材の加工・木材の流通に係る体制の整備への支援を講ずることを規定
- 脱炭素社会の実現に向けて、建築物において県産材の利用を促進するための脱炭素に配慮した支援や、カーボンクレジットの活用をはじめとする県産材の利用を通じた脱炭素化のための取組の推進について規定

県産木材のロゴマーク・キャッチフレーズ

【ロゴマーク】



NAGANO WOOD PRODUCT

家のシルエットに幹と枝を組み合わせ、窓の外に太陽（月）が浮かび穏やかな暮らしを育んでいる「暮らしごこち」を表現しています。

【キャッチフレーズ】

つながる木のいのち

県産材を通じて、私たちの暮らしが生命の循環の中にあることへの感謝の気持ちと、私たちの暮らしに届くまでに、価値を重ね、新しい命を吹き込み、つないでくれたすべての人への尊敬の気持ちが込められています。

「県産材ロゴマーク・キャッチフレーズ」を決定しました。

県産材を多くの方々に知ってもらい、県産材を選んでいただくためシンボルとしての「ロゴマーク・キャッチフレーズ」を決定しました。（表紙参照）

ようお願いします。

今後は、消費者の方が一目で県産材を使った商品であることがわかるように様々な製品に使用すること、県産材の利用を促進していきます。

県産材の振興や利用は、森林の整備やゼロカーボンの実現にも繋がります。



ロゴマーク・キャッチフレーズの使用について（県HP）

【県産材利用推進室】

「NAGANO WOODポータル」開設しました。

長野県の木材・木製品を扱う事業者等に関する情報を掲載しています。ぜひ、御覧ください。
https://www.pref.nagano.lg.jp/mokuzai/portal/nagano_wood_potat_home.html





「開かれた里山」シンポジウムを開催しました

県では、令和5年度から、多くの県民や県外から長野県を訪れる方が気軽に利用できる里山（開かれた里山）を増やすことを目的に、第4期森林づくり県民税を活用して「開かれた里山」の整備等に取り組む地域を支援しています。

令和7年3月現在で29地域において取組が開始されていますが、先行地域の取組を広く普及し、取組地域の更なる増加を図ることを目的に、「開かれた里山」シンポジウムを令和7年3月8日（土）に会場（塩尻総合文化センター）とオンラインの併用で開催し、約120名に参加いただきました。

シンポジウムでは、多くの県民や県外から長野県を訪れる方を惹きつける里山づくりを実践されている5団体の皆様（左記参照）から他地域でも参考になるような活動のポイントを紹介いただいたほか、令和6年度に作成した「開かれた里山」事例集の紹介も行いました。

作成した事例集には、県内外の多くの皆様が、県内の豊かな里山を訪れ、より身近に親しんでいたための参考となるよう、市町村や民間団体等の皆様が中心となって「開かれた里山」に取り組む20の事例を掲載しています。

シンポジウムの詳細や事例集については、県ホームページにおいて公開しておりますので、是非ご覧ください。

シンポジウム活動報告団体

面替地域里山整備利用協議会	御代田町
ふたえ里山整備協議会	大町市
NPO法人やまぼうし自然学校	上田市
東山地域里山活性化プロジェクト	諏訪市
松川森林セラピーの会	松川町

詳細はこちら↓
（長野県HP）



R7.3「開かれた里山」シンポジウム

【信州の木活用課】

新たに6名の長野県林業士が誕生しました

令和7年2月12日、長野県林業総合センターで長野県林業士認定証書授与式を開催し、新たに6名を長野県林業士に認定しました。県では、地域林業の中核的人材として、昭和48年から長野県林業士を養成しており、認定者の累計は573名に上ります。

長野県林業士になるためには、「森林・林業セミナー」と「林業士入門講座」を受講し、2年間で計46日間のカリキュラムを履修する必要があります。今回認定された6名も、専門的な知識・技能の習得や、地域でのフィールドワークに取り組み、学びの成果を修了レポートにまとめるなど、地域林業のリーダーとしての資質向上に励んできました。

認定証書授与式で認定者の代表挨拶に臨んだ篠塚大志さんは、ともに長野県林業士を目指す仲間と切磋琢磨した日々を振り返りつつ、長野県林業士として地域に貢献する将来像を語ってくれました。新たに長野県林業士となる方々には、それぞれの現場で多くの経験を積み、地域林業をけん引する重要な役割を担っていただくことを期待しています。



新林業士のみなさんと記念撮影



認定者から代表挨拶



森林・林業セミナー
や林業士入門講座に
ついてはこちら

【信州の木活用課・林業総合センター指導部】

〔木曾谷・伊那谷フォレストバレーメインプロジェクト〕

信州伐木チャンピオンシップ2025を開催します

長野県では、昨年に引き続き、チェーンソーの安全かつ正確な操作技術を競う「信州伐木チャンピオンシップ」を開催します。昨年は、長野県初となる「信州伐木チャンピオンシップ」を開催したところ、20名の選手が参加し、優れたチェーンソー技術を披露しました。当日は300名を超えるギャラリーが集まり、大盛況となりました。

競技は、競技においては、誤った動作（＝危険な動作）は大幅な減点となり、また、ツル幅や受け口等の1mm、1度といった僅かな差が得点に影響し、順位に繋がります。安全かつ正確な動作を理論的に学び、高得点を目指して競うという楽しさが加わることで、練習に励み、安全への理解の深化と技術の向上が図られます。

こうした競技を通じて、林業関係者の安全意識の向上や林業就業者間の交流が促進されるとともに、林業の魅力の発信や新規林業就業者の確保に繋がることを期待しています。観覧に事前の申し込みは不要ですので、御興味のある方は、是非、当日の競技会にお越しください。

<競技例>



伐倒競技(簡易方式)
定められた方向に正確に伐倒する技術を競う



丸太合わせ輪切り競技
上向き・下向きに傾けて設置した2本の丸太を正確に垂直に輪切りにする技術を競う

信州伐木チャンピオンシップ2025

◆開催日 令和7年8月30日(土)

◆場所 長野県林業大学校グラウンド

◆主催 信州伐木チャンピオンシップ実行委員会
(事務局・信州の木活用課)

◆競技会の詳細はこちら



「木曾谷・伊那谷フォレストバレー」については、こちらの専用HPをご覧ください



中部森林管理局

人事異動

令和7年4月1日付

次長(名古屋事務所長) 宮島 智幸

総務企画部

総務企画部長 永田 治久

総務課長 屋敷 昌司

専門官(契約適正化)

企画官(安全衛生) 寺沢 正樹

計画保全部

計画保全部長 大崎 幸生

計画課長 藤平 康則

保全課長 藤原 淳一

野生鳥獣管理指導官 藤井 勝

企画官(土地利用) 塩島 卓夫

専門官(災害調整) 安田 智宏

流域保全治山対策専門官 中村 享

森林整備部

資源活用課長 高橋 進

技術普及課長 三井 正

災害対策分析官 降旗真紀子

企画官(木材需給対策) 井上 智之

北信森林管理署 次長 村木 英徳

東信森林管理署 次長 軒端 信司

中信森林管理署 次長 可知 英樹

木曾森林管理署 次長 高塚 慎司

木曾森林管理署 次長 開藤 秀昭

木曾森林管理署南木曾支署 次長 北村 大

富山森林管理署 支署長 井口 智

飛騨森林管理署 署長 青野 洋徳

岐阜森林管理署 署長 山田 英人

伊那谷総合治山事業所 次長 辻井 正徳

所長 芳沢 厚実

中嶋 章

林務部

林務部長 根橋 幸夫

林務部次長 千代 登

森林政策課 松本 健

森林政策課長 平澤 忍

信州の木活用課 小林 健吾

信州の木活用課長 井出 政次

長野県林務部(課長級以上)

人事異動

令和7年4月1日付

林務部

林務部長 根橋 幸夫

林務部次長 千代 登

森林政策課 松本 健

森林政策課長 平澤 忍

信州の木活用課 小林 健吾

信州の木活用課長 井出 政次

主任林業専門技術員 今尾 春彦

県産材利用推進室長 田川 秀和

企画幹兼課長補佐 塚平 賢治

森林づくり推進課長 宮坂 正之

鳥獣対策担当課長 伊藤 啓一

企画幹兼課長補佐 植木 信吉

企画幹兼保安林係長 狩戸 知喜

諏訪地域振興局 橋渡 博之

企画幹兼治山林道係長 池上 路浩

木曾地域振興局 坪井 武久

林務課長 橋渡 博之

松本地域振興局 池上 路浩

企画幹兼普及係長 坪井 武久

北アルプス地域振興局 山城 政利

林務課長 神谷 一成

長野地域振興局 千村 広道

企画幹兼治山林道係長 奥原 清恵

北信地域振興局 小澤 岳弘

林務課長 長澤 幸一

林業大学校 指導部長 太田 明

林業総合センター 所長

林業総合センター 指導部長

長野県林業公社 事務局長

林務部

林務部長

林務部次長

森林政策課

森林政策課長

信州の木活用課

信州の木活用課長



▲（一財）長野経済研究所吉池知子チーフを講師に迎え、ビジネスマナーの基礎について研修



森林組合初任者研修会



▲長野県林務部信州の木活用課担い手係日詰究担当係長から長野県の森林・林業を取り巻く情勢について講演いただいた

4月21日から22日にかけて長野県林業センタービル会議室を会場に、令和7年度森林組合初任者研修会を開催しました。本研修会では、組合職員として働くうえで必要な知識やマナーを学ぶ場として毎年開催されており、今年は6つの森林組合と県森連から11名が参加しました。



◀林業ボードゲーム「FOREST BALANCE GAME」で森林経営を模擬的に楽しく学んだゲームだと専門用語や知識の理解も進みやすいと好評だった



▲事業活動には必須の簿記・会計を基本から学ぶ



3月28日、長野県林業センタービルにて長野県林業職員協会令和7年度通常総会が行われました。

長野県森林組合連合会 村松敏伸専務理事による来賓挨拶に続き、山下会長を議長に議事が行われ、第1号議案令和6年度事業報告及び収支決算書の承認をはじめ各議案が審議のうえ、原案どおり承認、決定されました。

令和6年度は、8月に中部6県森林組合職員連盟ブロック会議を山ノ内町湯田中温泉で開催し県内外の会員が集い意見交換のほかICTハーパースタについて知見を深めました。10月に開催した県大会では、駒ヶ根市駒ヶ根高原を会場に林業技術競技会と運搬用ドローンの実演と実証結果について研修しました。今年度も会員相互の親睦を深め、林業の諸課題解決に資する研修や視察などを各支部や全体での活動を通じて推進していきます。



長野県林業職員協会
通常総会開催される

第55回長野県協同組合連絡会通常総会が4月7日にJ A長野県ビル（長野市）にて開催されました。

総会は、長野県農業協同組合中央会・各連合会 神農佳人会長（連絡会会長）から挨拶が行われた後、第1号議案「令和6年度事業報告並びに収支決算の承認について」に始まり、第4号議案まで審議のうえ、原案通り承認され、役員改選により長野県森林組合連合会の藤原忠彦代表理事会長が会長に就任いたしました。

総会終了後は、日本協同組合連合機構の伊藤治郎常務理事から「協同組合のアイデンティティの全国討議の内容とICAへの提言の意味と、IYC 2025に向けて」と題し、ご講演いただきました。

さらなる協同組合運動の発展を長野県から

長野県協同組合連絡会
通常総会開催



7月5日（土）は国際協同組合デー 国際協同組合年





スマート林業技術実践研修会

GIS 技術のレベルアップで拓く、 長野県の林業の未来

2024 年 11 月 15 日～ 2025 年 3 月 7 日

①QGIS基本操作研修会 (上田市・安曇野市)

スマート林業技術の活用に必要な、GISの基礎知識を学び、QGISによる森林情報の管理・分析の基本操作を実習形式で研修しました。

②GNSS測量研修会 (上田市・塩尻市)

県内で普及が進む高精度GNSS測位機器を用いた測量方法及び測量に便利な地図アプリの操作や、測量成果の造林補助申請への活用方法を習得しました。



③地形から読む 森林ゾーニング研修会 (塩尻市)

元長野県職員で「CS立体図」を開発するなど、地形解析や山地防災の第一人者である、(株)ジオ・フォレストの戸田堅一郎氏を講師に招き、森林ゾーニングの考え方や地形判読、CS立体図等による災害リスク箇所や施業適地・不適地の判読方法を習得しました。



⑤QGIS高度活用研修会 (安曇野市)

「業務で使うQGISver.3完全使いこなしガイド」等の著者である北海道庁の喜多耕一氏を講師に招き、QGISの応用的な活用方法を習得するとともに、参加者の日常の課題等を共有し、その課題にを解決していただくかたちで実践的な研修を行いました。



スマート林業に関する技術は日進月歩であり、今般、業務効率化に活かしていくためにはGIS（地理情報システム）等の基礎的な技術を習得するとともに、新たな技術への対応と業務への応用力が不可欠となっております。県内では多くの組織でQGISやGNSS測量技術の活用が進んできていることから、本年度は基礎技術の研修会に加えて、更なる技術レベルの向上を図り、QGISを活用した応用編の研修会を開催しました。

④森林資源情報把握研修会 (安曇野市)



ドローン空撮画像を活用した森林資源情報等の把握方法を習得しました。当日は、ドローンによる空撮とQGISを使った手順について演習形式で学びました。



4月17日安曇野市三郷の中信木材センターもくろりゅう館にて「長野県森林組合連合会 労働安全衛生推進大会及びコンプライアンス研修会」が開催されました。

労働安全衛生推進大会は、連合会職員の日々の業務における安全向上のため、毎年4月に行っています。

はじめに、講師に長野県林務部信州の木活用課担い手係 日詰 担当係長を迎え、コンプライアンス研修を行いました。コンプライアンス態勢の強化は、不祥事案の防止や社会的信頼の回復につながり、関わる人々が互いにその社会的地位や事業環境を守ることから、森林組合系統の健全な発展のためにも積極的に行動していくべき取り組みです。職員個々が意識し、責任と自覚を持って行動していくことが求められています。

続いて、業務課から森林認証の教育研修会を行い、午後は労働安全衛生大会として、(株)ダイレクトコミュニケーション川島達史氏を講師に「交差分析研修〜チームワークを向上させる〜」と題し、グループワークを行いました。



▲「相手の存在を認める働きかけ」を意味するストローク理論を学び、各グループで、笑顔で仕事をするなど大きな声で挨拶をするなど目標を話し合い、発表しました。



▲エゴグラムチェックリストを活用した性格判断では、普段は自身でも意識していなかった互いの長所・短所がわかり、各グループで盛り上がりしました。



▲最後に、北信木材センター池内繁明所長代理の発声により職員一同「安全宣言」を行い、木材センター等での日頃の安全作業への意識を改めました。



長野県産材の供給体制の強化に向けて

長野県森連業務課の販売推進の取り組み

長野県森林組合連合会では、森林組合をはじめ、各地域から搬出された素材丸太を木材センターで集荷するほか、県内外の大型製材工場と協定を結び、山土場からの直送を行うことで、共同出荷体制を構築し、県産材の安定供給と有利販売に努めています。

ウッドショック後の木材需要の反動や県内大型製材工場の再編、改正物流効率化法や改正クリーンウッド法への対応など、木材流通を取り巻く情勢が変わりゆく中で、この度長野県森連業務課では、共同出荷体制の強化を目的に県内各地で各森林組合の販売担当者を集め、販売担当者会議を開催しました。

森林経営の意欲創出や、林業従事者の待遇改善、主伐後の再造林費用の原資としても素材丸太の単価の上昇が不可欠であり、長年、課題とするところ。会議の中では、生産情報と需要情報の共有を行い、より精度の高い供給可能数量の情報を把握し、機動性のあるマーケットインの素材生産を実現するほか、需要先との価格交渉をより優位に行い、安定供給と安定価格の信頼構築を図っていくことを確認しました。

また、これまで紙ベースであった納品書をクラウドデータで取り扱うなど、サプライチェーンシステムの構築を提案しました。

森林組合系統で力を合わせ、小さなところから業務効率化に努め、木材価格の上昇と県産材の取り扱い数量の増大に取り組んでいきます。

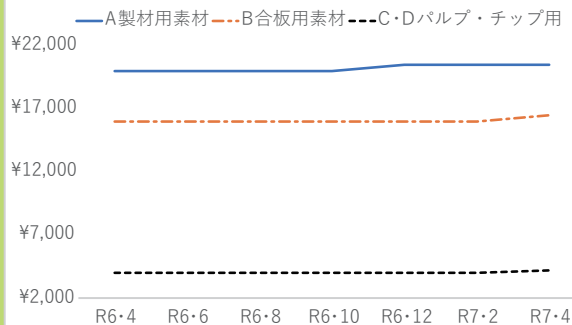




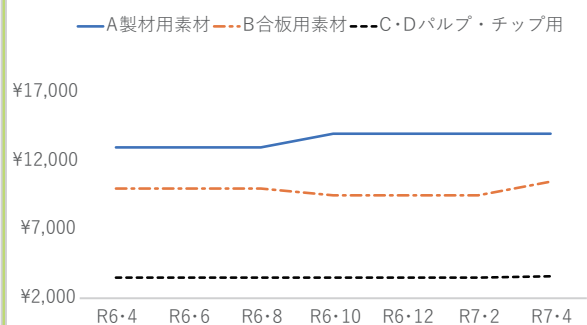
長野県の木材市況



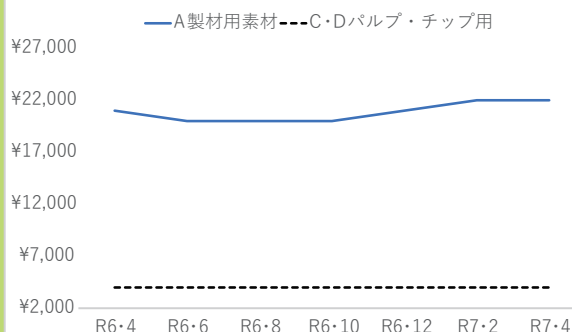
カラマツ用途別素材立米単価 (円/㎡)



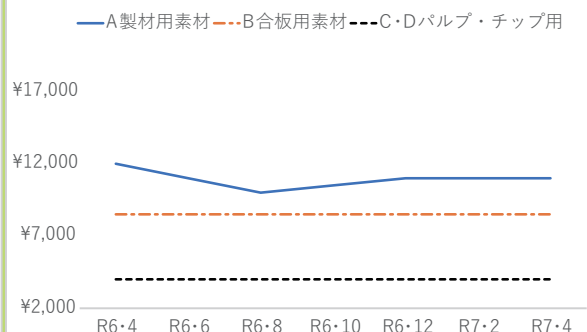
スギ用途別素材立米単価 (円/㎡)



ヒノキ用途別素材立米単価 (円/㎡)



アカマツ用途別素材立米単価 (円/㎡)



※北信、中信、伊那木材センターの市況表より作成

ようやく信州にも春が訪れ、県内各地で桜も見ごろになった4月の市売では、県内各地の木材センターに多くの出荷をいただきありがとうございました。

広葉樹は、ホオ、ナラ、クルミ等の良質材が多数出品され、特にカキやキハダにおいて高値がつけました。

製材用丸太については、ヒノキは柱取りの需要が落ち着いてますが、土台取りは変わらず需要がありますので、4m造材をお願いします。スギについては不足感があり、需要回復傾向で、特に不足している3mでの造材を心掛けてください。カラマツについては、継続的な需要が見込まれますので、直造材での出品をお願いします。合板用丸太については、需要回復傾向であるものの、価格は厳しい状況が続いております。

今後も需要動向に注意しながら、各木材センターにて造材方法等をご相談させていただきますのでよろしくお願いいたします。

【当連合会は合法木材に取り組んでおります】

合法木材供給事業者の認定を取得したうえで、出荷時には合法的に伐採された木材であることのコメントと合法木材認定番号及び伐採地と伐採箇所が記載された納品書及び伐採届の提出をお願いします。※安全のため、木材センターでの荷下ろし・積み込みの際には車止めの使用とヘルメットの着用をよろしくお願いいたします。



▲北信木材センターに出品されたカキとキハダ

県森連 HP では市売情報を写真付きで随時更新しております！

最新の市況表もご覧いただけますので、納材や入札の検討にご活用ください！

「長野の林業」のバックナンバーもこちらから♪



長野県森連

